

自己評価報告書

平成23年 5月 9日現在

機関番号：11301

研究種目：特別推進研究

研究期間：2008～2012

課題番号：20001001

研究課題名（和文） 清朝宮廷演劇文化の研究

研究課題名（英文） A Study of the Culture of Court Theatre during the Qing Dynasty

研究代表者

磯部 彰 (ISOBE AKIRA)

東北大学・東北アジア研究センター・教授

研究者番号：90143841

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・各国文学・文学論

キーワード：大清グルン、宮廷演劇、連台大戯、節戯、内府鈔本、南府・昇平署、儀礼、八旗体制

1. 研究計画の概要

(1) テキスト・資料、政治性研究

① 清朝宮廷演劇の主要な大戯作品内容と伝存テキストの全貌、及び文学史・芸能史上の流れを明らかにする。

② 国家事業としての宮廷演劇が持つ政治性を明らかにする。

(2) 文化・社会史的影響研究

① 清朝宮廷演劇資料の整理と出版に反映する中国の近現代政治史的動向を明らかにする。

② 清朝宮廷演劇が、地方演劇形成に与えた影響を導き出す。

③ 外国使節が宮廷演劇をいかに理解したかを明らかにする。

(3) 中国社会の特性研究

① 中国人の意識構造や社会秩序などに宮廷演劇文化が果たした役割を検証し、清帝国以降の中国の性格を明らかにする。

2. 研究の進捗状況

(1) 連台大戯研究：(A) 班

昇平宝筏・楚漢春秋・鼎峙春秋・昭代簫韶・如意宝冊・混元盒について、大要の把握とその要約集に向けての作業が進み、明代の出典の依拠状況も一部を除いて判明した。テキストの調査では、中国・台湾・日本での残存状況と異本が明らかになった。

(2) 節戯・昇平署研究：(B) 班

節戯は、宮廷政治と関係が深い九九大慶に含まれる作品群の内容分析が行なわれ、四海昇平などのテキスト調査が北京の諸機関を中心に進行している。清代乾隆朝及び道光朝を代表する内府鈔本テキストを影印出版した。

(3) 内府出版システム研究：(C) 班

中国・日本・ロシア・アメリカ・韓国・台湾で内府本調査を実施した結果、連台大戯・節戯のテキストの他、サンクト・ペテルブルグ大で未見の中国小説・戯曲の所蔵が判明した。また、ドイツで全像金字西遊記を発見し、明清内廷鈔本の特徴が判明した。

(4) 中国演劇資料研究：(D) 班

宮廷劇本を収めた古本戯曲叢刊九集の刊行が、後の文化大革命の引き金になったことが判明した。

(5) 清朝政治社会史研究 (E) 班

清朝前期の八旗体制下、内務府や包衣の政治的な位置づけ、南府・昇平署の官庁としての性格が鮮明化されたことで、儀式としての宮廷演劇の作品分析に指針が与えられた。

(6) 次代に研究をつなげる組織として、若手グループ班を設け、連台大戯及び清朝国内外の政治・社会的関係をめぐる研究を加えた。

(7) 研究成果は、国内・国際会議での口頭発表、単行本の出版、ニューズレター、ホームページ等を通して、逐次公表している。

3. 現在までの達成度

① 当初の計画以上に進展している。

(理由)

(1) 宮廷演劇の中心である連台大戯は当初に加えてほぼすべてが研究され、その作品の要約と異本の研究が本年度にまとめられる。

(2) 節戯の解明と清朝儀礼との関係が明確にされ、テキスト伝存状況の把握が進んだ。

(3) 北京故宫博物院と共同で、未公開の宮廷演劇本の調査によるデータ収集と公開事業を実施

する段階に入った。

(4)進捗状況調査による助言を得て、中国地方演劇及び周辺諸国への影響については、研究者の協力を仰ぐこととし、その成果からベトナム・琉球王国・朝鮮王朝が清朝宮廷演劇文化を摂取していることが判明した。

(5)地方劇への影響については、新たな分担者による京劇形成史の分析が進みつつある。当初の計画とは変更があるものの、修正後の研究計画は順調に進んでいる。

4. 今後の研究の推進方策

(1)宮廷演劇の劇本を朝代ごと書誌的に分類し、康熙期の鈔本、乾隆朝による五色刊本・四色鈔本、嘉慶帝によるテキスト校閲、道光帝の二色刊本出版、在京劇団の内廷出仕による民間テキストの流入という時代的変遷を踏まえて、宮廷演劇本の出版文化史上での定義づけを行なう。そして、代表的テキスト・資料の複印による研究基盤の確立を果たす。

(2)中国・ドイツ・フランス・イタリア・イギリス及び東欧における清朝宮廷演劇テキスト及び中国小説等関連資料の調査によるデータの収集とテキスト・作品研究を深化させる。

(3)連台大戯・節戯の各作品の概要を通して、宮廷演劇作品の特色、とりわけ儀礼としての面を明らかにする。

(4)宮廷演劇作品が北京の地方劇団・俳優の活動に与えた影響を分析する。同時に、若手研究者・院生を指導して当初計画以外の連台大戯作品、士大夫の演劇活動、太平天国の演劇文化、琉球王朝の演劇文化等を解明する。

(5)研究会・国際研究集会を通して研究レベルを上げるとともに、国内外の研究状況を把握し、シンポジウムにより宮廷演劇が持つ特色、政治性、文化史上の影響を明確化する。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 27 件)

1. 大塚秀高、「神話と創作—關於逆流与擁抱」、『中国古代小説研究』、第4輯、pp.97-114、2011年、査読なし

2. 磯部祐子、「劇本において内府本とは何か」、『ナオ・デ・ラ・チーナ』、第 11 号、pp.30-39、2011年、査読なし

3. 赤松紀彦・金文京・小松謙・佐藤晴彦・荀春生・高橋繁樹・高橋文治・竹内誠・土屋育子・松浦恆雄、「元刊雜劇の研究(八)〈火燒介子推〉第三・四折全訳校注」、『京都外国語大学研究論叢』、75号、pp.27-50、2010年、査読なし

4. 中見立夫、「清朝“边疆史地学”与日本“東洋史学”的交流—《元朝秘史》抄本的渡日—」、『明清論叢』、第十輯、pp.528-540、2010年、査読あり

5. 金文京、「敦煌《舜子變》與廣西壯族師公戲《舜兒》」、香港城市大學中國文化中心編『西域—中外文明交流的中轉站』、pp.55-74、2009年、査読あり

[学会発表](計 18 件)

1. 大塚秀高、「《全漢志伝》、《兩漢開國中興伝誌》研究緒論」、慶賀朱一玄先生飛躍年寿誕暨中国古代小説国際学術研討会、2010年9月24日、南開大学(中国天津)

2. 中見立夫、「关于日本东洋文库与中国第一历史档案馆所藏镶红旗衙门档案」、清朝满汉关系史国际学术讨论会、2010年8月28日、中国社会科学院近代史研究所(中国北京)

3. 杉山清彦、「清初期对漢軍旗人“滿洲化”方策」、清代滿漢關係史国際学術研討会、2010年8月28日、中国社会科学院近代史研究所(中国北京)

4. 磯部彰、「《江流記》及《升平宝筏》与刊本西游记」、中国典籍与文化国际学术研讨会、2010年3月9日、北京大学(中国北京)

5. 金文京、「關於兩種湯賓尹校正本《三國志傳》」、2009年韓国中国小説学会創立20周年記念国際学術大会、2009年9月19日、崇實大學校(韓国ソウル)

[図書](計 12 件)

1. 磯部彰編著、特別推進研究「清朝宮廷演劇文化の研究」班、『上海図書館所蔵「進瓜記」原典と解題』、2011年、204ページ

2. 磯部彰編著、特別推進研究「清朝宮廷演劇文化の研究」班、『上海図書館所蔵「江流記」原典と解題』、2010年、212ページ

3. 加藤徹、中央公論新社、『中国古典からの発想—漢文・京劇・中国人』、2010年、304ページ

4. 金文京著・高橋智編、特別推進研究「清朝宮廷演劇文化の研究」班、『慶應義塾図書館蔵「四郎探母等四種」原典と解題』、2009年、234ページ

5. 磯部祐子著、特別推進研究「清朝宮廷演劇文化の研究」班、『東北大学附属図書館蔵「如是觀等四種」原典と研究』、2009年、170ページ

[その他]

ホームページ

<http://eapub.cneas.tohoku.ac.jp/court/>